

第1回BWIアジア太平洋地域大会に参加して

—アジアにおける建設労働者の連帯と交流の場

BWI アジア太平洋地域大会に全国一般を代表して参加！—

名 称 第1回BWIアジア太平洋地域大会
日 時 2007年9月13日～16日
場 所 ネパール・カトマンズ
参加者 自治労全国一般評議会・幹事
道 脳 清 全国一般労働組合大阪地方本部書記長

世界1位の山脈（エベレスト連峰：チョモランマはチベット語）があるネパール・カトマンズにおいて第1回BWIアジア太平洋地域大会が開催された。



大会は、前半（9/13～14）はセミナーとして開催され、建設関連（約80名）、森林関連（50名）に分散し、後半（9/15～16）の大会は各国から230名が参加した。日本からは、13名（UIゼンセン5名、森林労連3名、建設連合2名、自治労全国一般1名、通訳2名）が、建設関連に8名（UIゼンセン5名、建設連合2名、自治労全国一般1名、通訳1名）、森

林関係（森林労連3名、通訳1名）にそれぞれ参加した。

「セミナー開催」

第1日目（9/13）のセミナーでは、開会あいさつ後、 balan・ナイール地域代表があいさつ「なぜカトマンズで開催か」、2005年2月1日、クーデター（戒厳令）で国王に反対する政党、労働組合（ナショナルセンター3組織）、民衆が立ち上がり民主主義復活を求めた。今年9月初旬の爆破事件（内戦）のため開催が困難に陥りそうになったが、他の国でもセキュリティに問題はあるとし、開催にこぎつけたことを評価した。



セミナーのなかで、さまざまな課題に対して政府、雇用主、労働者が連携を密にし、職業訓練などを通してスキルアップをめざすことが重要であるとし、活発な論議を期待するとした。

次いでFES代表があいさつ、FES財団は1929年設立、事務所は世界各地に100ヶ所、南太平洋地域での意思決定への影響をもたらすため、①民主主義の欠落に対する世界的対話、②世界的対立のなか基本的政策の実現をはかるとし、労働条件の悪化や女性や弱者に対する教育訓練など多くの課題への社会的な正当性実現に向け平和的

な解決をめざすため、労働組合の任務と役割が重要とした。

またBWIネパール代表は、200万人（人口2300万人）が建設関連労働に従事、賃金は最低賃金に達せず（労働者の月例賃金4120ルピー、収入が多いものでも11800ルピー（1ルピー＝1.7円）、季節労働者など不当な扱いがなされるなど失業率も高く、90%の労働者はスキルがなく職業訓練が課題となっており、今秋の選挙闘争（2007.11.21）にむけ課題の解決をめざす、とした。

BWIアニタ事務局長は、1億2000万人が建設労働に関与しているが、多くは非正規労働者である。地域間格差があり、インドから中近東への出稼ぎも多い。どうアクセスすべきか。職業訓練、トレーニング、学校などでのスキルアップが必要。世界的言語（例えば英語）問題、中国労働者の進出などアフリカでは言葉の問題が大きく、ブラジルなど中南米も貧困との闘いがある。こうしたアクセスのためには資金が必要であるが、企業も限界になりつつある。そのため、公的資金づくりが求められている。貧困を抜け出すためには世界的に通用しうるスキルアップと尊厳性を求めたとりくみが重要であるとした。

その後、プレゼンター（問題提起）では①事務局よりセミナーの目的と概要、②フィリピン代表がシンガポールのワーカーズシステムとフィリピンの学校・職業訓練の実態、③韓国代表は建設経済研究員の立場でドイツと韓国の建設・電機労働者の比較などの提起を行った。

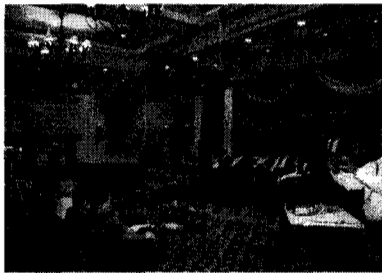
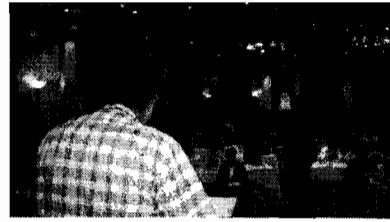
エバラ・ネパール労働大臣から歓迎あいさつなどのあと活発な質疑・討論がなされ午前の部が終了した。午後には、事例報告①女性の職業訓練（インド）、②津波・災害復興職業訓練（フィリピン）、③韓国建設労働者（200万人）の事例研究・報告を受け、質疑・討論ではスリランカ、フィリピン、インド、ネパール、パキスタンなどから、有毒ガス対策などの安全問題、職業訓練スキルのガイドライン、ユニオンとしてのサポートなどの課題がだされた。また、建設関連では、3つのグループに分散、第2グループ（20名）は「組合と企業の職業訓練」（日本、台湾、インド、ネパール）でミーティングを行い、①インドの職業訓練は州単位で組織化されている場合とそうでない場合があり、スキルトレーニング、資格・認定には3段階があるが、識字率が低い。台湾は政府からの支援はあるが企業からはない。そのためユニオンがリーダーシップを発揮することが重要とした。日本は、549万人（8.5%）が建設関連労働者であり多くは企業内ユニオンで企業内訓練、OJTが主流であるとした。また、大手と中小の労使関係の違いや国からの一定の資金援助制度もあり活用がなされている実態を報告し、1日目が終了した。



「セミナー2日目」

二日目（9/14）はグループ討議報告、①ユニオンのサポート（発表者・スリランカ）、②ユニオンと企業（同・日本＝建設連合・小川委員長）、③政労使三者のとりくみ（インド、韓国、インドネシア）がそれぞれ発表し、質疑・討論を行った。その後、①グループ報告書の総括と次のステップ（アン

ベット・ユソン・アジア太平洋副代表)、②BWI事務局よりハンディキャップ者、女性、若年者のユニオン加盟、③建設業界における技術訓練についてドイツの経験(クラウス・BWI会長)が提起され、質疑・討論を行い終了した。



「地域大会開催」

三日目(9/15)は、第1回BWIアジア太平洋地域大会(スローガン;「外へ出よう、組織化しよう! =労働者の尊厳を回復しよう!」)が開催され、59 国 230 名が参加・報告。大会は、ネパール代表歓迎あいさつ、BWI副代表が開会宣言、ITUC・鈴木事務局長が連帯あいさつ、主

催者を代表して、クラウスBWI会長が「幾多の困難のなかネオリベラリズム・新自由主義に反対、イラク戦争反対、ビルマのスーチー軟禁問題など民衆化闘争の重要性、中東問題、エイズは貧困問題、気象温暖化・砂漠化、冷戦終結後の地域紛争は憂慮すべき、ユニオンのとりくみの優先順位として、組織化とキャンペーなどあらゆる課題実現に奮闘しよう」と訴えた。



大会は、議事日程、セクシュアルハラスメントのBWI方針、ネパール首相との面談などを確認、国際建設林業労働者連盟(BWI)「外へ出よう、組織化しよう! =労働者の尊厳を回復しよう!」は、2005年12月、IFBWWとWFBWWが合併し、1200万人(135カ国・350組合)、アジア太平洋(18カ国・73組織)が加盟している。



夕食会でネパールダンスを楽しむ

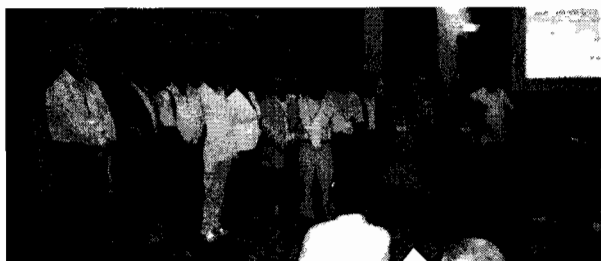
アクションプラン計画(2006~2009年:大会は4年に1回)では8つの戦略計画(①持続的森林経営、②アスベスト禁止のグローバルキャンペーンの支援、③多国籍企業と国際枠組み協定交渉、④グローバル企業の改革・圧力、⑤民主的組合の組織化、⑥グローバルネットワークづくり、⑦連帯キャンペーン、⑧ジェンダー主流化を課題とすることを確認した。

「地域大会2日目」

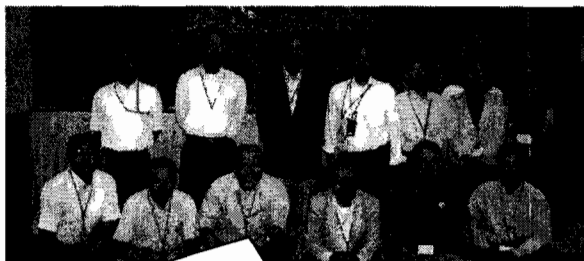
4日目(大会二日目)は、河田JAC議長(森林労連委員長)が司会進行、各団体からの連帯あいさつ、(1)グローバルユニオンから郷野晶子TWARO事務局長(UIゼンセン)など3団体、(2)ナショナルセンター{ネパール3団体、ビルマ(ミャンマーは軍事政権名称)、ノルウェー代表}がアピールした。その後、BWI・アニタ書記長が「アジア太平洋の挑戦」で問題提起し、次いでアンベット地域代表・新事務局

長が向こう4年間の「地域戦略2011」を提起した。

質疑・討論・採択し、新役員として河田議長・アンベット事務局長体制を確認し、大会を終了した。



新役員体制



参加した仲間の皆さん、通訳の並木、富樫さん

「BWI大会参加しての感想」

9月12～19日の日程で開催された大会は、9月12日、午前8時成田空港に集合、期待と不安のなか10時20分、日本航空717便発にてネパールへ出発し、バンコク15時05分着（2時間遅れの時差）。バンコク18時35分発（出発約2時間遅れ）、ネパール・カトマンズ20時25分到着（さらに時差1.5時間）したが（入国手続きにも時間が掛かった）、宿泊先のラジソンホテル（4日連泊）では全員が疲れのため、そのまま解散し眠りにつきました。



大会初日の朝食・午前6時30分に特性の手作り目玉焼きは言葉が通じず食べられず、毎朝、カレー味のスープを中心の食事となりました。

大会はBWI建設及び森林ワークショップ(前半

二日間)、同時に、地域大会(後半二日間)のなかで、アジア太平洋の各国の建設・森林労働者の現状を把握・学習し、参加者の議論は活発で有意義であり、各国の様々な事情の違いや温度差がある

ものの総じて労働組合の任務と役割の重要性

が確認された大会でもありました。

大会スローガンの「外へ出よう、組織化しよう！労働者の尊厳を回復しよう！」は、まさに全国一般運動を含めた日本労働運動にも十分通じるものであったと思います。組織統合された



女性のお祭りの日に遭遇



通訳の富樫さんたちが飛行機でのヒマラヤ見学で撮ったメール写真を借用しました

BWI 第1回大会は、4年に1回の大会開催であるが、自治労全国一般評議会は組織的關係(自治労方針では海外の組織は一つしか加盟しない)で今回が最後の参加となるのが残念であるが、BWIの組織の発展とさらなる活動強化を期待したいと思います。

大会終了後の9月17日、現地のガイドの引率で世界遺産の寺院(80%はヒンズー教)などを中心に市内観光やヒマラヤを見るためにバスにて見学(2000mの山荘から1時間徒歩で上った場所・ちなみにネパールでは5000m以下の山の名前はなく丘とのこと)したが、曇り空のため実現しませんでした。ネパール・カトマンズ

は1300mの高盆地であり、生活実態はバイク、自転車、タクシーは軽自動車、バスはワゴン車が主流であり、宗教の關係で牛や犬などとの生活の共存と賃金が安いなかでガソリン代は日本と同程度であり、世界的なガソリン高が影響しているようでした。

18日は午前中の寺院見学後、13時50分にはカトマンズを出発(天気が良かったため飛行機からヒマラヤ撮影を試みたが失敗・残念)、バンコク経由で19日、午前6時30分成田に到着し、参加した仲間との再会を願いながら、帰途に着きました。

